

まぐろから見える世界

③2
（社）責任あるまぐろ漁業推進機構顧問 原田雄一郎

足かけ4年にわたる400万トンを超えるレベルに達している。IFを閉じる時がきた。AO統計。特に、発展途上国においては、その経済的發展の鍵を握り、あらためて取りまごめて、最終回として。

◆世界的に需要増加したマグロ◆

言うまでもなく、マグロは、日本人に最も好まれている魚の一つだが、今や、多くの国にとって重要な貿易商材ともなり、世界的に需要が増加している。

（1980年代、世界のマグロ類の生産量）カツオを含む一は、約190万ト。最近では、

資源管理 今後世界的にも世界の先頭に

持続的利用の旗、高く掲げ

その活用への意欲が一段と高まっている。

◆法律で国是

「まぐろ法」

日本は、マグロの漁獲および消費に關し、国際社会の中で、特別の地位を占めている。

◆国際ルール

「まぐろ法」

「まぐろ法」(まぐろ資源の保存及び管理の強化に關する特別措置法)第一条は、日本の

かかる地位に鑑み、「まぐろ」を守らずに漁獲す



(おわり)

る便宜置籍漁船の廢絶「違法マグロの市場からの締め出し」を国際社会に訴え、そのための国際ルールの制定と確立に貢献した。また、「世界のマグロ地域漁業管理機関(RFMOs)の弱点を補強するための国際協力を推進した。特に、全てのRFMO資源の回復は明らかに同調する各国の力を絶、彼らの不合理な意図の実現を阻んぐろ漁船の数次にわたる大規模なスクラップ減船という痛みを堪えて、資源管理措置を実施した。多くの国が、漁獲能力を抑制する必要性を認めつつも、自国のマグロ漁船の増強に走る中で、日本の行動は、漁船団を削減してでも、率先して資源の保存・管理の実をあげようとしたのだ。思えば、多くの船主、乗組員が、マグロ漁業から去った。彼らの顔を思い出すと、今でも、胸が痛む。

しかし、世界共有の財産であるマグロ資源の持続的利用を確保するためには、誰かが、旗を高く掲げ、問題解決の先頭に立つていかねばならない。日本が、今後も、その役割を果たすことを期待するとともに、この思いを次世代に託したい。

国のあり方を法律で裏打ちし、国是として明言している国は、世界の中で、日本の他にはな。

◆国際ルール

「まぐろ法」

「まぐろ法」(まぐろ資源の保存及び管理の強化に關する特別措置法)第一条は、日本の

かかる地位に鑑み、「まぐろ」を守らずに漁獲す

◆行き過ぎた保護運動にも対抗

「まぐろ法」

「まぐろ法」(まぐろ資源の保存及び管理の強化に關する特別措置法)第一条は、日本の

かかる地位に鑑み、「まぐろ」を守らずに漁獲す

◆痛みを堪え

「まぐろ法」

「まぐろ法」(まぐろ資源の保存及び管理の強化に關する特別措置法)第一条は、日本の

かかる地位に鑑み、「まぐろ」を守らずに漁獲す

かかる地位に鑑み、「まぐろ」を守らずに漁獲す